とやま、祭り彩時季【六】

春の祭礼と行事　写真・文／木原盛夫

とやま、祭り彩時季【六】

春の祭礼と行事　写真・文／木原盛夫

CONTENTS

◯ひな祭り・・・・・・・・・・・・・・・4P
◯全日本チンドンコンクール・・・・・15P
◯花祭り・・・・・・・・・・・・・・・20P
◯下後亟神明社の酒とり祭り・・・・・24P
◯さくらまつり・・・・・・・・・・・30P
◯ふちゅう曲水の宴・・・・・・・・・34P
【コラム】旧街道の往還松・・・・・・42P
◯まるまげ祭り・・・・・・・・・・・44P
◯ごんごん祭り・・・・・・・・・・・52P
◯砺波チューリップフェア・・・・・・61P
◯山を駆け上がる五箇山の春祭り・・・66P
【コラム】国内に唯一残存する・・・・81P
五箇山の流刑小屋
◯唐島祭り・・・・・・・・・・・・・84P
◯鹿嶋神社の稚児舞・・・・・・・・・92P
◯やんさんま・・・・・・・・・・・・99P
◯赤浜のショーブツ・・・・・・・・・108P

◯宇波のコウラウラの祭り・・・・・・116P
◯お鍬さま祭り・・・・・・・・・・・129P
【コラム】尻打ち祭と新嫁の尻叩き・・138P

◯ひな祭り

３月３日のひな祭りは、女の子のすこやかな成長を願う節句。桃の節句とも呼ばれるのは、嘗ては旧暦の３月３日に行なわれ、ちょうどその頃が桃の花が咲く時季だったから。

もともとは人形に自分の邪気を移して川にながす＜流し雛＞だったそうで、その起源は中国で行なわれていた「上巳の節句」といわれている。３人の娘を授かったが３人とも生後３日以内に亡くなり、その父親が嘆き悲しむの見た村人が娘の亡骸をお酒で清めて水葬したのが始まりだという。

流し雛の人形が時代を経てだんだん豪華になったため、川に流すのではなく家に飾るようになったそうだ。

３月３日前後に県内でも、通りに面した民家や商店をギャラリーにして明治・大正・昭和、古いものでは江戸時代に作られた雛人形を飾って公開する「ひなまつり」のイベントが各地で開催されている。

高岡市福岡町では２月後半から３月始めにかけて毎年１０日間ほど「ふくおかひなまつり」を開催している。旧家・島田邸や雅楽の館など９ヶ所ほどで雛飾りを展示し、土・日にはコンサートや参加型ワークショップを催している。２０１９年で第１０回なので、２０１０年から始まったようだ。

歴史を感じさせる土蔵造りの町家が並ぶ高岡市の山町筋でも、３月３日を過ぎた土・日の２日間に「山町筋のひなまつり」が開催される。通りに並ぶ商家や民家、スーパーに年代も様々なひな飾りが趣向を凝らして展示される。旧家をリノベーションした商業施設であり文化発信拠点でもある山町ヴァレーでは、コンサートなども催される。

６P上：福岡町の旧家・島田邸の雛飾り。
６P下：雅楽の館に展示された大正時代のお雛様。
７P：同じく雅楽の館に展示された江戸時代のお雛様。

大正時代

お雛さま人形
江戸時代

８P：土蔵造りの町家が並ぶ、山町筋。
９P上下：山町筋の商家やスーパーマーケットに展示された雛飾り。
１０P上：山町ヴァレーのホールには、２階へ上がる階段を利用した雛飾りが。
１０P下：山町ヴァレーの中庭では、コンサートなどのイヴェントも行われる。
１１P：土蔵造りのまち資料館には、高岡市立博物館所蔵のものや、個人所蔵の珍しいお雛様が展示されている。

紀州

奈良

南砺市の井波では、「お人形さまめぐり」と題したイベントが３月中頃から後半にかけて本町通りで開催されている。元々は上新町（旧町名）の女性たちがお雛様を飾る催しとして「ひなまつり」を始めたが、中新町や下新町の方でもやりたいということになり、雛人形だけではなく色んな人形も飾れるイベント「お人形さまめぐり」となった。開催日も当初は３月３日のお雛様の日に合わせていたが、その頃はまだ雪が残っていたり寒い時季で人も訪れてくれないので、暖かくなる後にずらしたそうだ。

１２P：井波の本町通り。
１３P：玄関口に飾られた雛飾り。
１４P：上新町には「上新町のひなまつり」と書いた幟が飾られ、他の町には「お人形さま巡り」と書いた幟が並ぶ。

○全日本チンドンコンクール

昭和３０年（１９５５）にスタートした全日本チンドンコンクールも、富山に春の訪れを告げる風物詩になっている。

全国チンドンコンクールの名称から昭和４０年に全日本チンドン選手権大会となり、昭和５６年から現在の全日本チンドンコンクールとなった。

プロのチンドンマンが毎回全国から３０組ほど集まってアイデアと技量を競う他、アマチュアのチンドンマンが出場するステージもある。

開催日は４月上旬の土・日曜日で、金曜日には前夜祭も行なわれる。前夜祭では、市内を流れる松川や富山城址公園周辺、桜木町などをチンドンマンが流して歩く。

初日の土曜日はオープニングセレモニーの後、チンドンコンクールの予選とアマチュア・チンドンマンのコンクールが。２日目の日曜日は本戦が行なわれ、その後、プロ・アマチュアのチンドンマンが一緒になって練り歩く大パレードが開催される。

１６P：県民会館での本戦の様子。２組ずつのトーナメント方式で行われる。
１７P上：２０１７年のコンクールで優勝したチンドン芸能社美香。
１７P下：華やかなフィナーレ。
１８P：総曲輪の平和通りで開催されたチンドンパレード。道の両側に見物用のゴザが敷かれ、車を通行止めにして１４時３０分から１時間ほど行われた。

１９P：チンドンパレードの後も、名残惜しいのか松川の辺りを練り歩くチンドンマン。

○花祭り

４月８日のお釈迦様の誕生日を祝う行事が花祭りで、灌仏会（かんぶつえ）ともいわれている。県内でも多くの寺院で行なわれ、稚児行列や白象のお練り、お釈迦様の像に甘茶をかけるなどの催しがなされる。

この風習が中国から日本に伝わったのは７世紀頃とされ、以来、お寺の行事として行なわれている。

花祭りに白象が飾られたり町中を子供たちによって引き回されるのは、お釈迦様を出産されたマーヤー王妃が懐妊した際、白い像が右脇から胎内に入っていく夢を見たとされることに由来する。

また、甘茶をお釈迦様の像にかけ流したり、甘茶を振る舞われるのは、お釈迦様が誕生した時に空から甘露という甘い雨が降り、それをお釈迦様の産湯にしたという由来から。

甘茶はユキノシタ科のアマチャという植物から作られるもので、発酵させることで甘みのあるお茶になる。

「甘茶を飲むことで無病息災になる」「目につけると目が良くなる」「甘茶ですった墨を使うと字が上手くなる」といったご利益があるそうだ。

写真は、２０１６年の福岡町長安寺の花祭り。

２１、２２Ｐ：お釈迦様の像を背中に乗せた白象を引きながら、町内を練り歩く福岡幼児学園の子供たち。２３Ｐ上：白象お練りが終わると、園児の代表がお釈迦様に甘茶をかける。２３Ｐ下：住職から紙芝居風のお釈迦様についての講話を聞く子供たち。

○下後亟神明宮の酒とり祭り

小矢部市にある下後亟神明宮で毎年４月１１日に開催される奇祭、酒とり祭り。無病息災、五穀豊穣を願い、大厄である４２歳を含む２０代～４０代の下帯（ふんどし）姿の男たちが、栖杓に汲んだお神酒を境内に集まった見物客に振る舞う。正確な起源は定かではないが、３７０年以上前に下後亟地区が大凶作に見舞われた際、村人が総出で酒を撒いて祈願したのが始まりという説が一般的で、祭りは３００年以上続いている。

『ふるさとの風と心　富山の習俗／富山新聞社編』（桂書房）には、<村に不慮の災害が続いたときくじを引き、祭礼の折、神酒をたくさん供えて参拝人にふるまえば、必ず無病息災、五穀豊穣という結果がでたことからこの祭りがはじまった>と書かれている。

１６時半から社殿で神事が執り行われ、１７時から獅子舞の奉納。酒とり祭りは１７時２０分から始まった。

柄杓を手に持った下帯姿の男たちが鳥居の下に並び、太鼓の合図で一斉に拝殿まで駆け抜ける。拝殿の中には一升瓶を抱えた役員がおり、次々に柄杓の中へお神酒を注ぐ。柄杓の中にお神酒を入れてもらった男たちは、境内に集まった参拝客や見物客にお神酒を振る舞ってまわる。用意された一升瓶１７本が全てなくなるまで続けられるが、１０分ほどで終わった。

２６Ｐ：鳥居の下で宮司よりお祓いを受ける男たち。

T06-016

◯さくらまつり

県内にある桜の名所の数々で、桜の開花を喜び楽しむイベントが行なわれる。

町内を流れる岸渡川（がんどがわ）の両岸に約１kmに渡ってソメイヨシノが植えられた高岡市福岡町でも、毎年４月上旬から「さくらまつり」が開催されており、会期の中心となる土・日曜の２日間には能楽や雅楽の公演、川舟下り、フリーマーケットなどのイベントが行なわれる。

岸渡川沿いの桜並木は福岡町出身の実業家・寿原外吉氏が、昭和２５年から２８年にかけて町に寄贈したソメイヨシノ５,０００本の苗木を植栽したのが始まりという。

現在残っている桜の数は１,０００本とも３,０００本ともいわれているが、正確な数はわからない。

３１P上下：川舟下りと能楽公演。
３２－３３P：岸渡川の桜並木。

T06-018

○ふちゅう曲水の宴

県内にある桜の名所の一つ婦中ふるさと自然公園と公園内にある各願寺で、４月の第３日曜日に開催される「ふちゅう曲水の宴」。Wikipediaには、曲水の宴とは＜水の流れのある庭園などでその流れのふちに出席者が座り、流れてくる盃が自分の前を通り過ぎるまでに詩歌を詠み、盃の酒を飲んで次に流し、別堂でその詩歌を披講するという行事である＞と書かれている。

各願寺の寺伝として庭で曲水の宴を行なったことが伝えられており、また、その様子を描いた襖が残っていたことから住民参加の伝統行事として３０年以上前に復元された。

曲水の宴自体は１４時からだが、１０時から庭に設けられたステージでアトラクションが行なわれたり、短歌の表彰式が行われる。

３５P上下：各願寺の山門と本堂。３６P上下：曲水の庭園と、アトラクションのオカリナ演奏。

曲水の宴の前には公民館から各願寺まで入山行列が行なわれるが、これは富山藩になってから藩主がたびたび各願寺を訪れ、九重桜のもとで桜花の宴を行い歌を詠んだことに由来する。

男性は衣冠（いかん）、狩衣（かりぎぬ）、女性は袿（うちぎ）、十二単（じゅうにひとえ）など平安貴族さながらの装束を身にまとう。開宴のことばに続いて歌題が披露され、稚児巫女による「曲水の宴」が奉奏される。

盃を乗せた羽觴（うしょう）が曲水に流されると、水辺に座った歌人たちが詩歌を詠み、短歌にしたためる。歌人の創作した短歌を披講者が最後に詠み上げ、一時間ほどで終了する。

３８P上下：富山藩主の入山を再現した入山行列。駕籠に乗った藩主を、山主が出迎える。
３９P上下：２０１９年は曲水の宴の直前に雨が降り出したため、急遽会場を本堂に変更した。
４０P上下：平安貴族の衣装を身に纏い、和歌を詠む歌人。歌人の創作した和歌を披講者が詠む。

and more...